



晴れ着を大事に

一度着たらすぐ手入れ

ふだんは着物を着付けない方も、お正月には晴れ着を身につける機会が多いでしょう。

晴れ着は、洋服などちがって汚れたらクリーニングに出せばいいというものでもありませんので、一度手を通したらすぐに手入れをするようにしたいものです。

さて、手入れの方法ですが、まず衣桁やハンガーにしばらくかけておき、湿気をとります。

次に、たとう紙や花ござの上に広げて、タオルなどで全体をたたくようにしながら、ほこりをとります。

ほこりとりに、十センチ角ぐらいの小さなふとんを作っておくと便利です。えりやそで口、すそなどは、一度でも着ると汚れがつくものです。



タオルを二、三枚重ねて敷き、その上へえりやそで口の部分を裏返しに置いてベンジンを含ませた脱脂綿で軽くたたくようにすると、汚れがタオルに移ります。

そのあと、ベンジンのシミ跡が残らないように、霧吹きなどで吹いて周りをぼかしましょう。この方法で汚れがとれないときは、ベンジンに中性洗剤の溶液を加えるか、あるいは市販のシミ抜き用のスプレーを使うとよいでしょう。

最後に、帯の下にあたることやそで付けなどシワになる部分は裏から当て布をしてアイロンをかけます。そして湿気がとれるまでしばらく衣桁やハンガーにかけておき、そのあと、たとう紙に包んでしましましょう。

母子の会話

人と人との出会い——人間関係は、まず「あいさつ」から始まると言ってもよいでしょう。

あいさつは、人間関係をスムーズにする手段であると同時に、礼儀の基本となるものです。幼いうちから、あいさつがきちんとできるようにしつけをしたいものです。あいさつとか礼儀というとなにか形式ばった感じもしま

すが、本来は、相手に対する心の表れであり、それが一定の形になったもの——と言うことができます。

あいさつ

心と形の両面からしつけを

対する心——気持ち——を大切にし、その表現としてある決まった形があることを教えるようにしたいものです。

ところで、幼児期の子供をとりまく人間関係は、両親を

はじめ、祖父母、親類縁者など年長者との交わりがほとんどです。当然、年長者に対するあいさつが、しつけの中心になります。

「おはよう」と「おはようございます」の区別など、相手が年長者か友達かによって、あいさつする時の表現や態度に違いのあることも分からせるようにしたいものです。

とは言え、相手がどのような人であれ、その存在を認める気持ちの表れという点では、あいさつする「心」に違いのあるはずがありません。

あいさつは、言うなれば、社会生活への「パスポート」です。子供には、心と形の両面から、あいさつのマナーを身につけさせたいものです。

お子さまのたこあげ遊びに注意

- たこあげ遊びは、電線のない所でするように注意してあげましょう。
- もし、電線にたこがひっかかったときは、お近くの東京電力へご連絡ください。
[東京電力今市営業所 ☎22-0004]

